

(1)長期計画(後期)策定の目的

- 江東区は、平成21年に策定した基本構想に定める区の将来像「みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東」の実現に向け、20年構想の折り返し地点となる令和2年3月に、まちづくりと区政運営の具体的指針である新たな長期計画を策定した
- 新型コロナウイルス感染症の影響や、世界的なエネルギー・食料価格の高騰など、変化の激しい社会経済情勢においても、質の高いサービスを継続的、安定的に提供するとともに、新たな課題にも迅速かつ柔軟に対応できるよう、所要の見直しを行う

以下の視点を踏まえ、長期計画(後期)を策定する

① 社会・経済情勢の変化に対応した戦略的な計画

- 人口推計や本区を取り巻く現況と課題の分析を踏まえ、社会の潮流や区民ニーズの変化に対応した計画に見直し
- 現行計画の達成状況、成果等を検証し、その結果を踏まえ、効果的・効率的に取組が推進されるよう、必要な改善等を図る

② 行政マネジメントと連携した計画

- 施策の成果を測る成果指標について新設や見直しを実施

③ 区民とともに作る計画

- 区民会議のほか、新たな取り組みとして「こうとうジュニア未来会議」を開催し、多様な世代・主体の参画を通じて、区民の意見・アイデアを反映
- 区民アンケート、パブリックコメントの実施など、積極的な意見収集

▼ 計画期間

- 令和7年度～令和11年度(5年間)

▼ 検討体制

- 庶務担当課長を中心とした「長期計画策定部会」を発足。
- 学識経験者等で構成している外部評価委員会で、専門的見地及び区民視点から意見・助言を聴取する。

▼ 検討スケジュール

- 令和5年度…基礎調査、人口推計、区民会議・こうとうジュニア未来会議 分野別計画骨子(案)策定
- 令和6年度…パブリックコメント、主要事業選定

(2)令和5年度の作業

① 人口推計

- 令和6年1月1日を基準日として、コーホート要因法による推計を実施。

② 基礎調査(各種データ分析、他自治体の取り組み調査、SDGsの目標との整理)

- 約600の指標ごとに、特別区23区および近隣区と定量的に比較し、分析した。
- 社会情勢の見通しや国・都の動向等から、今後本区に及ぼす影響・迫られる課題を施策ごとに整理し、「社会経済分析結果」としてまとめた。
- 現行計画において、大綱ごとに関連性の高いSDGsの目標を示すことにとどまっているが、SDGsのゴールから、施策ごとに実施している取り組みを整理する。(作業中)

③ 施策実現に関する取り組み指標に関する効果検証・要因分析

- 施策別ロジックモデルを作成し、現状の取り組み内容を整理した。
- ロジックモデルを用いて整理することで、施策・事業間の関係を体系的に明示し、施策の目指す姿を達成するための全体像を把握し、かつ、目標達成のために力を入れている分野や足りない分野などを可視化。

④ こうとう区民会議・こうとうジュニア未来会議の開催

- 令和5年8月に、区内在住・在学・在勤の18歳以上を対象とする「こうとう区民会議」と、新たな試みとして、こどもの意見表明の機会として、小学校4年生～高校生世代を対象とした「いいねを増やそう！こうとうジュニア未来会議～こども×アイデア=∞from the next generation～」を開催した。
- それぞれで出された意見は「区民会議報告書」「こどもの意見表明ブック」としてまとめ公表。

⑤ 職員ワークショップの開催(対象:主任以下の職員)

- ワークショップの目的
 - a. 基本構想・長期計画策定の過程の理解
 - b. EBPMの考え方の習得
 - c. ロジックモデルを用いた事業や、成果指標設定方法の理解
- 令和6年2月8日・16日、2日間にわたって実施。
- RESAS(地域経済分析システム/経産省・内閣官房提供)や、本区の住民基本台帳を抽象化し、地域ごとの人口動態を可視化するシステムを活用し、本区状況分析のうえ、本区課題に対する政策提言を行う。

令和6年3月までに策定

分野別計画骨子案 作成